

話題提供②

自立を目指した受け入れの準備と体制整備 (大学)

関西学院大学 学生活動支援機構事務部総合支援センター
キャンパス自立支援室 修学支援コーディネーター
生野 茜



大学の概要

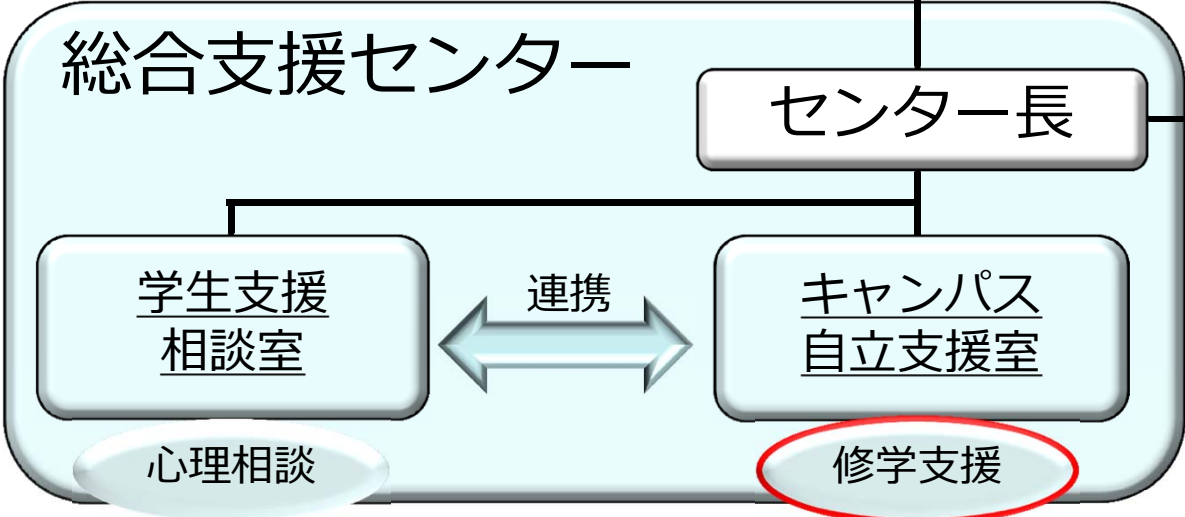
- 所在地 : 兵庫県
- 主なキャンパス : 西宮上ヶ原、神戸三田、西宮聖和
- 学部、研究科数 : 11学部、14研究科
- 学生数 : 25,452人
- 教員数 : 750人
- 職員数（専任） : 359人
(2018年5月時点)



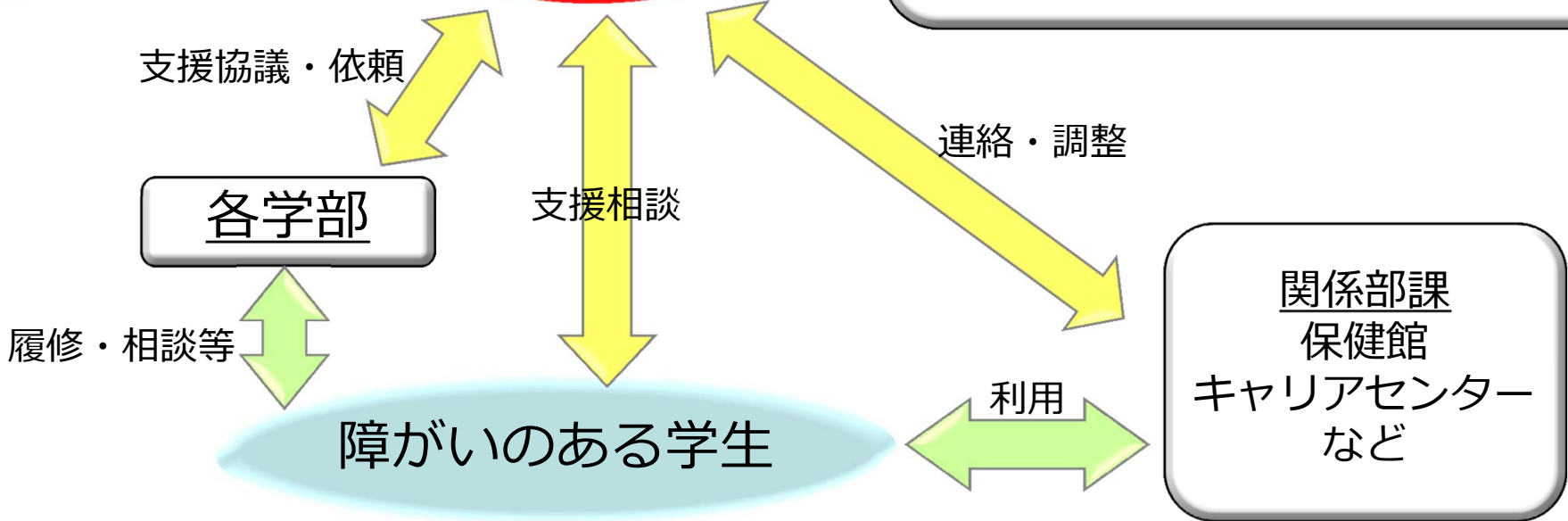


総合支援センターについて

学生活動支援機構



総合支援センター委員会
(センター長、副長、委員、事務長、
教務副部長、学生副部長、各学部事務長/
学生主任、保健館事務長、大学課長)





キャンパス自立支援における障がい学生支援

すべての障害

- 個別相談
- 授業担当教員への配慮事項の伝達
- 定期試験等の配慮の調整

聴覚障害

- ノートテイク（手書きテイク、パソコンテイク）
- 文字起こし、字幕付け
- 支援機器の貸し出し

視覚障害

- 教材の点訳、拡大、テキストデータ化
- 対面朗読
- 支援機器の貸し出し

肢体不自由

- 授業教室に関する調整
- 授業教室間移動支援（ガイドヘルプ）
- ノートテイク（手書きテイク、補助）
- 支援機器の貸し出し

精神・発達障害

- 修学相談、履修相談など
- スケジュール立案
- その他困りごとに合わせた支援



キャンパス自立支援室 利用学生数

障害種別	上ヶ原	三田	聖和	全キャンパス
視覚	2	2	0	4
聴覚	7	2	1	10
肢体	2	3	0	5
病弱・虚弱	5	3	2	10
発達	36	10	1	47
精神	27	12	2	41
その他	5	3	0	8
合計	84	35	6	125

- 4名が生活介助が必要な学生
- 福祉サービス利用2名、家族による支援が2名

※障害種別が重複している場合は、先に書かれている障害種別に計上 (2019年4月現在)



入試前～入学後までの支援の流れ



入試前の準備

入 試 前

オープンキャンパス参加にあたっての配慮

(座席配慮、情報保障、個別面談)

できるだけ早い時期に面談

各種入試出願の遅くとも2カ月までに面談を実施したい

(配慮内容の検討→決定→通知、当日までの人員、機器の準備に時間がかかる)

障がい状況の把握

※生活介助が必要な場合、市町村の福祉サービス利用について説明

受験時の配慮希望について聞き取り、検討

本学で提供可能な修学支援について説明、検討



入学前の準備

入学前

修学上の配慮について確認、配慮願いの作成

※多目的トイレ、エレベーター、教室の出入り口、車いす席、建物へのアクセスの確認（併せて、車いすの操作など動作確認）

実際の授業に参加（90分）1コマ～3コマ

+ノートテイクの利用体験

※体力的にどうか、支援機器の活用はできそうか

ノートテイクやガイドヘルプなどのサポートを利用する場合は、早めに時間割を組んでもらい、サポーター派遣の準備

入学式～オリエンテーション期間の支援について確認

（ご自身で）通学の練習（公共交通機関の利用も含め）



入学後の支援

入学後

授業開始→サポート開始

ノートテイクやガイドヘルプに携わる学生サポートスタッフと顔合わせ

中間面談

授業の様子、学生サポートを利用する上で困ったことはないか等、定期試験での配慮希望聞き取り

学期末面談

学期のふりかえり、次の学期に向けた配慮、履修科目の確認、サポートの確認

随時面談（必要に応じて、特に理系や実習系の授業では、随時教員や関係部署等と相談）



修学支援の範囲と入学するまでの準備



修学支援の範囲・・・試験、レポート、課題等について

- レポートや課題等、学習内容についてのアドバイスは、TAや学内のチューター制度を利用
- 試験、レポート、課題、演習、実験、実習は自身で取り組む必要がある
 - あくまで修学環境を整える
 - 成績や評価に関わる部分には関与できない
 - ※取り組むための手段や方法などは随時相談、支援を行う



大学に入学するまでに準備しておいてほしいこと

- 自身の障がい状況、どんなことに困るのかを自身で説明できるように
- ※合理的配慮の提供は、本人の意志表明があってから。
学生サポートスタッフにも自分で指示を
- 大学生活へのイメージを早めに掴む
 - 福祉サービス利用について事前の準備を



ご清聴ありがとうございました